

提言活動、引き続き力

県経済同友会、総会で新体制承認



2期目の意気込みを語る中村正筆頭代表幹事(中央)と新任の池田直樹(右)、水谷泰三両代表幹事＝岐阜市長良、岐阜グランドホテル

再任の中村筆頭代表幹事ら意欲

県経済同友会は12日、総会と理事会を岐阜市内で開き、中村正筆頭代表幹事(66)＝秋田屋本店社長＝を再任した。中村氏は再任後に会見し、「1期目の活動方針に掲げた原点回帰の思いは、いささか変わることはない」と述べ、引き続き提言活動に力を入れる考えを示した。

中村氏は、「提言活動を最も重要なアイデンティテ

ィーと位置付けたい」と強調。具体的には「外国人材受け入れを考える委員会」「事業承継を考える委員会」

を新たに立ち上げ、来年2月までに提言をまとめる方針を明らかにした。外国人材の委員長は、中村氏が自ら務める。

10月には中部地方8同友会が集まる経済同友会中央日本地区会議を岐阜市内で

開催する予定。中村氏は「人手不足は共通の課題。対応策に理解を深めたい」と意欲を示した。

会見では、新任の代表幹事(岐阜地区)に就いた十六銀行の池田直樹副頭取(61)、文溪堂の水谷泰三社

長(61)も同席。「筆頭代表幹事をしっかりと支えた」と意気込みを述べた。

例会では、北朝鮮事情に詳しい南山大総合政策学部の平岩俊司教授が「北朝鮮核・ミサイル問題と国際社会」をテーマに講演した。